



川口市立図書館

図書館だより

138号 2011.3

パソコン用ホームページURL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAN.CSP>

携帯用QRコード



わたしの今年の一冊 2010

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で16回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で26点、掲載させていただきます。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

「昔日の客」関口良雄

夏葉社 2010年刊 914.6/イ

古本屋のご主人のエッセイです。でも、ただの古本屋さんではなく、作家の方々にも愛され日本近代文学館を作るのにも貢献された方です。エッセイを読むと一編一編がドラマのように映像が目に浮かんでくるのです。夕日の中の馬込の町、お店にくる人々、実家の話、などなど。心があたたかくなります。(50代 女性)

「アシュリー」アシュリー・ヘギ

フジテレビ出版 2006年刊 936/ハ

生まれながらに早期老人症(プロジェリア)と言う病気に侵されていた14才少女の自伝でしたが、世界でも3~40人位しかない難病で寿命13~14年と宣告されているながらも強くポジティブに生きているというとても感動的な本でした。今年18才位で亡くなられた様ですが100才にも値する人生だったと思われます。「勇気を有がとう」と心より思います。(50代 男性)

「葬送」平野啓一郎

新潮社 2002年刊 913.6/ヒソ

ショパンと言えば、まず思い浮かぶのはピアノの名曲の数々と、愛人であったジョルジュ・サンドのことではないかと思えます。しかし、この本はショパンを軸として、友人であるフランショームやドラクロワ、彼を取り巻く人々についても非常に詳細に触れられており、彼の人生を深く想像することができます。かなり読み応えのある本ですが、ショパン生誕200年という記念の年に、この本に出会えて幸せでした。(?代 女性)

「ナニカアル」桐野夏生

新潮社 2010年刊 913.6/キ

林芙美子の戦中のある一時期について、作者が想像力と事実をうまく掛け合わせて作った小説です。でも読んでいるうちに思わず「これは本当の話？」と疑ってしまいました。

この本のおかげで、この後、林芙美子の著書をおおかた読むことになりました。(50代 女性)

「海辺の博覧会」芦原すなお

ポプラ社 2007年刊 913.6/アウ

地方都市の海辺の小さな町に住む元気な小学生たちが大活躍！大人のやることをよく観察し、考察もし、子どもなりの理屈や正義で毎日の生活をおくる様子が、ユーモアたっぷりに描かれている。あー昔の子どもっていいな、と自分の育った昭和30年代にしばしタイムスリップしてしまった。私のお気に入り、男の子に相撲でも負けないマサコとそのデビラばあちゃんだ！(50代 女性)

「マンチュリアン・リポート」浅田次郎

講談社 2010年刊 913.6/アマ

蒼穹の昴シリーズ最新作。近年の緊迫した日中関係の発端とも言える、張作霖爆殺事件の真相に迫る。みな、それぞれがそれぞれの正義を信じ、貫き、命を懸ける様に魅せられました。

同著者による「終わらざる夏 上・下」と合わせて、戦後60年余、日本と中国、日本とロシア、未だ解決されずにいる根深い問題を、今一度考えさせられます。(40代 男性)

「コンビニたそがれ堂」村山早紀

ポプラ社 2006 年刊 913.6/ムコ

児童書ですが、大人にもしみます。本当に欲しい物、必要なものが見つかる不思議なコンビニ。お客さんは人間だけじゃなくて、動物だったりも。そして、不思議な店員さんは何と神様。絶対に心が温まります。(40代 女性)

「彼女との上手な別れ方」岡本貴也

小学館 2010 年刊 913.6/オカ

今年読んだ本の中で、一番面白かった小説です。岡本貴也さんは主に舞台の脚本を書いているせいか、この本も章毎に一人称の人物が入れ代わる方法で書かれていて、とても演劇的な感じがします。この人の書く作品には常々外れがないなと思っていたのですが、この本も全くその通りでした。人は第一印象が悪ければ悪いほど、その後の印象が少しでもよいと、もの凄く良い人に思えるという心理を上手く利用した作品であるなど。いい意味で、読者を裏切ってくれます。あんなにイヤな男だったのに、どんどん感情移入してしまい、最後には感動の涙さえ流すかも?!さすが岡本貴也です。(30代 女性)

「四十九日のレシピ」伊吹有喜

ポプラ社 2010 年刊 913.6/イシ

周りの人々の優しさにふれて、灰色だった主人公の心が、だんだんと温かく染まってゆきます。亡くなってからも家族を思いやる気持ち……とても素敵で 1 冊でした。(40代 女性)

「遊鬼」白州正子

新潮社 2006 年刊 913.6/ムコ

小林秀雄や青山次郎など、昨今の薄っぺらな文化人や小説家たちの感覚や美意識とは一味も二味も違うホンモノの美の世界を追求した文人・芸術家たちのスーパーリッチな精神と生活ぶりを堪能させてもらった。これからの人生の座右の書としたい。(60代 男性)

「銀二貫」高田郁

幻冬社 2009 年 913.6/夕

正直に生きる大切さ、人、物を信じる事大切さ、人間一人では生きてはいけない、一人ではないのだ、と色々なことを教えてくれました。今の時代に欠けている物は何かを教えてくれる一冊でした。(60代 女性)

「菊花酒」和田はつ子

角川春樹事務所

2010 年刊 913.6/ワキ

主人公は料理人で、裏家業は隠れ者。「料理は人々を幸福にする」を心掛け、腕前も確か。江戸市井人の食生活を絡めた捕物は雑学満杯。時代小説も面白く、江戸文化は素晴らしい。(60代 女性)

「キケン」有川浩

新潮社 2010 年刊 913.6/アキ

前半は「キケン」の仲間と過ごした、はちゃめちゃだけど楽しい学生生活に、読んで自分まで楽しく、学生時代に帰った気分になりました。後半では、主人公達の卒業後「楽しい学生生活は一生の宝物で、一緒に過ごした仲間も大事な宝物。その気持ちが一生続くと思っているのは自分だけなのだろうか。もしかしたら、他の仲間は自分と同じようには思っていないのではないか。」という主人公の気持ちが痛いほどわかって、胸が締め付けられる気持ちになりました。そして最後のページで思わず涙してしまいました。最高に楽しい、最高に温かい作品に出逢えました。(20代 女性)

「おれのおばさん」佐川光晴

集英社 2010 年刊 913.6/サオ

タイトルにひかれて借りました。社会の中で生きているいろんな人々。主人公もそんな社会の一員なのだが、おばさんの生き方を見ることにより自分も大人になってゆく。う~ん! とうなる読後感。おもしろかった。(50代 女性)

「勉強しなければだいじょうぶ」五味太郎

朝日新聞社 2010 年刊 370.4/ゴ

「学校へ行く」ことと、「教育を受ける」ということは別モノ。学校というシステム以外の教育のありかたを、21 世紀は真剣に考え、実行に移すときののだなと思った。「学校の神話」は子どもにかわって大人によってこわされるべきものかもしれない。(30代 女性)

「刑事一代 - 平塚八兵衛の昭和事件史」

佐々木嘉信 2004 年 317.7/ヒ

現代の人々の中で忘れさられ、或いはその存在すら知られていない事件の生々しい証言が語られているのが良いと思った。憶測や伝わって来た事件を纏めた本よりも当事者なので信憑性も高く興味深い。(30代 男性)

「私のように黒い夜」J.H.グリフィン
ブルース・インターアクションズ
2006年刊 936/グワ

白人の著者が黒人に変装してアメリカ南部でどの様に差別されるかのレポート。実際の差別体験も不快だが、同じ場所で白人に戻って行動した時に差別がなく、同じ黒人同士でありながら差別している事実や、レポートを発表した後の白人からの著者への差別が恐ろしい。アジア人である私も同じ時代に同じ場所にいたら差別を受けただろうと思うと、当時アメリカに移住した日系人の祖先も大変だったろうと感じた。(40代 女性)

「下町っ子戦争物語」早乙女勝元
東京新聞出版部 2010年 916/サ

太平洋戦争中に少年だった作家の早乙女勝元先生が、当時の空襲や勤労動員、戦争ごっこや教練の時間、ひもじかった思い出などを書いた本。戦争は決してしてはいけないと思つた。(50代 男性)

「のぼうの城」和田竜

小学館 2007年 913.6/ワ

初めて読んだ時代小説であり、結果、時代小説に開眼させられた一冊となりました。この出会いが無かったら、時代小説への読まず嫌いは今も続いていたと思います。(40代 女性)

「ダウンタウンに時は流れて」多田富雄

集英社 2009年 914.6/夕

著者のアメリカ留学時代の回想と脳こうそく後の苦しみが、たんと書かれている。その文章力、暖かい人間性、そして深い思想(哲学)に感銘した。(年代不詳 男性)

「とっても不幸な幸運」畠中恵

双葉社 2005年 913.6/ハ

人間にとって何が幸せなのか。定義はできない、しかし知りたい。逆説的なようで納得できてしまう、不思議な感覚がもてました。(40代 女性)

「最長片道切符の旅」宮脇俊三
新潮社 2008年刊 291.0/ミ

「ウワースゴイナ」「途中下車ですね」「こんな切符はじめて」「6万5千円とは驚いた」「68日か」。検札車掌や駅員とのやりとり。1978年国鉄の最長距離ルートを選び、北海道広尾から九州枕崎まで日本縦断一筆書きの旅 133194キロ。車両の型式、乗客や窓外の様子、乗車率、駅弁、駅前旅館等の描写。途中所用、カゼ等で中断があり、68日の通用期間を1日オーバーしてゴールイン。これらが淡々と書かれている。こんな旅をやってみたい。(70代 男性)

「神様のカルテ」夏川草介

小学館 2009年 913.6/ナ

主人公と周囲の人間が織り成す人間ドラマに思わず胸が熱くなる。暗澹たる事件が多い昨今、読んだ後の胸に広がる清々しさで、救われる気にさせてくれる癒し系の作品。(50代 女性)

「長宗我部」長宗我部友親

バジリコ 2010年 288.3/チ

長宗我部家の子孫の方が、ルーツをたどり、現代までの長宗我部家について記した本。この本で、長宗我部がちょうそがべと、にごって発音するのが正しいと言う事を知った。(50代 男性)

「日本史有名人の臨終図鑑」篠田達明

新人物往来社 2009年 281.0/シ

月刊「歴史読本」に毎月連載されている日本史上の様々な有名人の死亡診断を医師で歴史マニアの篠田達明先生がまとめた一冊。面白い本なので、是非一読を。(50代 男性)

「おでん大全」

旭屋出版 2004年 596.2/オ

全国の各地方ごとの特色のあるおでんと、おいしい店を紹介している本です。今年の冬は寒かったですが、寒いだけにおでんがよりおいしく感じました。この本を見て店を食べ歩きするのもよし、また見ているだけでも写真が満載なので、いい気分になれます。(20代 男性)

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想のすべては、掲載できませんでした。

書名だけでも、次にご紹介させていただきます。

「タイタンの妖女」カート・ヴォネガット	「冬の向日葵 Over The Bridge」渡治原海	「ゴーマニズム宣言スペシャル戦争論 1~3」小林よしのり	「新選組始末記シリーズ」子母沢寛	「火縄銃・大筒・騎馬・鉄甲船の威力」桐野作人	「日本軍の小失敗の研究」三野正洋	「絶対貧困」石井光太	「ヒトラー全記録」阿部良男	「ぼくらの七日間戦争」宗田理
---------------------	-----------------------------	------------------------------	------------------	------------------------	------------------	------------	---------------	----------------

『わたしの今年の一冊 2010』書名紹介(つづき)

「神は妄想である」リチャード・ドーキンス 「新・犯罪報道の犯罪」浅野健一 「1Q84」村上春樹 「日本の命運を決めた『坂の上の雲』の時代」谷沢永一 「刀語」西尾維新 「告白」湊かなえ 「影法師」百田尚樹 「神様のカルテ」夏川草介 「妖怪アパートの幽雅な日常」香月日輪 「恐竜がくれた夏休み」はやみねかおる 「ぼくはこうやって詩を書いてきた」谷川俊太郎 「最恐ダーリン」藤子 「流星の絆」東野圭吾 「赤い糸」メイ 「おばあさんのひこうき」佐藤さとる 「もっと知りたい!愛と性」ジルベール・トルジマン 「男の子と女の子のはなし」ロベルタ・ジョンミ 「真伝大坂の陣全3巻」伊藤浩士 「ハリーポッターシリーズ」J.K.ローリング 「性やからだのなやみ」上出弘之 監修 「ロボット大図鑑」 「もう一つの陸軍兵器史」藤田昌雄 「なおとくとはるかちゃん」もりやまみやこ 「へんなどうつぶ」ワダ・ガアグ 「朝鮮人特攻隊」斐淵弘 「二十歳からの20年間」宗形真紀子 「冬の兵士」反戦イラク帰還兵の会 「こんな「健康食品」はいらない」若村育子 「忘れえぬ人々」国木田独歩 「進化の存在証明」リチャード・ドーキンス 「愚美人草」夏目漱石 「安土大乱記(全2巻)」伊藤浩士 「トロイア戦争全史」松田治 「修験道」宮家準 「葉隠」小池喜明 「月刊「俳句」」 「ひとり暮らしな日々」たかぎなおこ 「ものぐさ数学のすすめ」森毅 「アンダードッグ」海野碧 「かいけつゾロリシリーズ」はらゆたか 「霧の橋」乙川優三郎 「明日の空」貫井徳郎 「最長片道切符の旅」取材ノート宮脇俊三 「ポール・スローンのウミガメのスープ」ポール・スローン 「ピースト・クエスト」アダム・ブレード 「砂漠の悪魔」近藤史恵 「天地明察」沖方丁 「鳥になりたい 語り継ぐ戦争体験 続6」宮下卯三郎 「もりのじてんしゃやさん」ふなざきやすこ 「下流の宴」林真理子 「ベストオブ窓ぎわのトットちゃん」黒柳徹子 「小暮写真館」宮部みゆき 「かもめ食堂」郡ようこ 「扉のむこうの物語」岡田淳 「ミッキーマウスの憂鬱」松岡圭祐 「マジカル少女レイナシリーズ」石崎洋司

川口市立図書館カレンダー

HP掲載省略

(「今月の休館日」などから、最新のカレンダーをご確認ください。)

芝北文庫が平成23年4月1日から開館します。

芝北文庫は、芝北公民館の中にある小さな図書室です。耐震工事のため平成22年11月より休館しておりますが、平成23年4月1日より再び開館いたします。新しくなった芝北文庫をぜひご利用下さい。

【芝北文庫】
開館時間 : 火・金・土曜日 10時～17時
住所: 川口市北園町11-1(芝北公民館内)
: お問合せは中央図書館へ



川口市立図書館 連絡先・開館時間

<p>【中央図書館】 048(227)7611 住所: 川口市川口1-1-1</p> <p>平日 午前10時～午後9時</p> <p>土・日・祝日 午前9時～午後6時</p>	<p>【前川図書館】 048(268)1616 住所: 川口市前川1-3-18</p> <p>【横曽根図書館】 048(256)1005 住所: 川口市仲町10-16</p> <p>平日 午前10時～午後6時 土・日・祝日 午前9時～午後5時</p>	<p>【新郷図書館】 048(283)1265 住所: 川口市東本郷1688</p> <p>【戸塚図書館】 048(297)3098 住所: 川口市戸塚東3-7-1</p> <p>平日 午後1時～午後5時 土・日・祝日 午前10時～午後5時</p>	<p>【芝園分室】 048(269)2241 住所: 川口市芝園町3-17</p> <p>平日 午後1時～午後5時 土・日・祝日 午前10時～午後5時</p>
--	---	--	--